

九段中等教育学校に入学を希望する皆様へ

**保護者の皆様と新入生からのメッセージ
～学校選択アンケートから～**

**令和3年度
千代田区立九段中等教育学校**

目次

令和3年度入学 18回生	
保護者対象学校選択アンケート集計結果	4
新入生アンケート集計結果	6
保護者の皆様からのメッセージ	
区分 A	8
区分 B	12
新入生からのメッセージ	19

令和3年度入学 18回生
保護者対象学校選択アンケート集計結果
新入生アンケート集計結果

保護者対象学校選択アンケート集計結果

令和3年度入学18回生 回収123、回収率77%

＜小学校時代の学習塾や通信教育などの利用＞ (複数回答有)

	区分A58人中	区分B65人中	計123人中
学習塾	56 97%	65 100%	121 98%
通信教育	24 41%	22 34%	46 37%
家庭教師	4 7%	2 3%	6 5%
いずれの利用もなし	2 3%	0 0%	2 2%
計	86	89	175

＜学習塾の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A56人中	区分B65人中	計121人中
公立中高一貫教育校対策	44 79%	47 72%	91 75%
私立校受験対策	10 18%	17 22%	27 22%
学習の機会を増やすため	10 18%	8 10%	18 15%
未回答	0 0%	4 5%	4 3%
計	64	76	140

＜学習塾の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A56人中	区分B65人中	計121人中
半年以内	5 9%	6 9%	11 9%
半年～1年	10 18%	8 12%	18 15%
2年	18 32%	20 31%	38 31%
3年	13 23%	15 23%	28 23%
それ以上	6 11%	13 20%	19 16%
未回答	4 7%	3 5%	7 6%
計	56	65	121

＜通信教育の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A24人中	区分B22人中	計46人中
公立中高一貫教育校対策	7 29%	13 59%	20 43%
私立校受験対策	1 4%	7 32%	8 17%
学習の機会を増やすため	20 83%	8 36%	28 61%
未回答	0 0%	0 0%	0 0%
計	28	28	56

＜通信教育の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A24人中	区分B22人中	計46人中
半年以内	1 4%	5 23%	6 13%
半年～1年	5 21%	1 5%	6 13%
2年	4 17%	6 27%	10 22%
3年	3 13%	2 9%	5 11%
それ以上	11 46%	8 36%	19 41%
未回答	0 0%	0 0%	0 0%
計	24	22	46

＜家庭教師の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A4人中	区分B2人中	計6人中
公立中高一貫教育校対策	2 50%	2 100%	4 67%
私立校受験対策	4 100%	1 50%	5 83%
学習の機会を増やすため	0 0%	0 0%	0 0%
未回答	0 0%	0 0%	0 0%
計	6	3	9

＜家庭教師の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A4人中	区分B2人中	計6人中
半年以内	2 50%	0 0%	2 33%
半年～1年	2 50%	0 0%	2 33%
2年	0 0%	1 50%	1 17%
3年	0 0%	1 50%	1 17%
それ以上	0 0%	0 0%	0 0%
未回答	0 0%	0 0%	0 0%
計	4	2	6

＜模擬試験の利用＞

		区分A58人中	区分B65人中	計123人中
公立中高一貫模試	利用した	44 76%	59 91%	103 84%
	利用しない	14 24%	6 9%	20 16%
	未回答	0 0%	0 0%	0 0%
私立中学模試	利用した	17 29%	39 60%	56 46%
	利用しない	41 71%	26 40%	67 54%
	未回答	0 0%	0 0%	0 0%

＜本校のことを知った時期＞

	区分A58人中	区分B65人中	計123人中
6年秋以降	0 0%	1 2%	1 1%
6年夏以前	0 0%	9 14%	9 7%
5年	3 5%	20 31%	23 19%
4年	1 2%	18 28%	19 15%
それより以前	54 93%	17 26%	71 58%
未回答	0 0%	0 0%	0 0%

＜本校の受検を決めた時期＞

	区分A58人中	区分B65人中	計123人中
6年秋以降	6 10%	14 22%	20 16%
6年夏以前	11 19%	14 22%	25 20%
5年	18 31%	27 42%	45 37%
4年	12 21%	6 9%	18 15%
それより以前	10 17%	4 6%	14 11%
未回答	1 2%	0 0%	1 1%

<本校の受検を決めた理由>

(3項目まで)

	区分A58人中		区分B65人中		計123人中	
教育方針	25	43%	29	45%	54	44%
交通の便	29	50%	25	38%	54	44%
学校周囲の環境	14	24%	12	18%	26	21%
在校生の様子	11	19%	15	23%	26	21%
偏差値	3	5%	8	12%	11	9%
施設	4	7%	13	20%	17	14%
授業の様子	4	7%	1	2%	5	4%
教職員の熱心さ	11	19%	6	9%	17	14%
共学校	8	14%	4	6%	12	10%
部活動	4	7%	5	8%	9	7%
給食があるから	6	10%	4	6%	10	8%
学習内容	8	14%	11	17%	19	15%
知人のすすめ	3	5%	2	3%	5	4%
学費	11	19%	12	18%	23	19%
キャリア教育	4	7%	6	9%	10	8%
学校行事	4	7%	6	9%	10	8%
制服	4	7%	1	2%	5	4%
本人の強い希望	11	19%	20	31%	31	25%
兄・姉が通っている	6	10%	4	6%	10	8%
英語教育	18	31%	20	31%	38	31%
大学進学実績	8	14%	5	8%	13	11%
担任の先生の勧め	1	2%	0	0%	1	1%
その他	0	0%	0	0%	0	0%

<私立校との併願>

	区分A58人中		区分B65人中		計123人中	
した	26	45%	40	62%	66	54%
しなかった	32	55%	25	38%	57	46%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<私立の併願校数>

	区分A26人中		区分B40人中		計66人中	
1校	10	38%	13	33%	23	35%
2校	9	35%	12	30%	21	32%
3校	2	8%	8	20%	10	15%
4校	3	12%	2	5%	5	8%
5校以上	2	8%	5	13%	7	11%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<本校の志望順位>

	区分A26人中		区分B40人中		計66人中	
第1希望	20	77%	38	95%	58	88%
第2希望	6	15%	2	4%	8	12%
第3希望	0	0%	0	0%	0	0%
第4希望	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<現時点でのお子様の進路希望>

(複数回答可)

	区分A58人中		区分B65人中		計123人中	
国公立大学	46	79%	39	60%	85	69%
私立大学	40	69%	17	26%	57	46%
医歯薬系大学	9	16%	10	15%	19	15%
海外の大学	1	2%	1	2%	2	2%
短期大学	0	0%	0	0%	0	0%
専門学校	0	0%	0	0%	0	0%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
計	96		67		163	

新入生アンケート集計結果 令和3年度入学18回生

<興味を持った都立中高一貫教育校> (複数回答可)

	区分A80人中		区分B80人中		計160人中	
都立白鷗高等学校附属中学校	9	11%	23	29%	32	20%
都立両国高等学校附属中学校	9	11%	24	30%	33	21%
都立富士高等学校附属中学校	5	6%	3	4%	8	5%
都立大泉高等学校附属中学校	1	1%	4	5%	5	3%
都立武蔵高等学校附属中学校	4	5%	2	3%	6	4%
都立小石川中等教育学校	31	39%	35	44%	66	41%
都立桜修館中等教育学校	5	6%	12	15%	17	11%
都立南多摩中等教育学校	1	1%	0	0%	1	1%
都立立川国際中等教育学校	9	11%	0	0%	9	6%
都立三鷹中等教育学校	6	8%	4	5%	10	6%

<併願校>

共学	男子校	女子校
郁文館中学校	6 学習院中等科	1 跡見学園中学校
市川中学校	2 暁星中学校	1 大妻中学校
浦和実業学園	10 京華中学校	1 学習院女子中等科
江戸川学園取手中学校	1 攻玉社中学校	1 共立女子中学校
大宮開成中学校	2 芝中学校	1 惠泉女学園中学校
開智日本橋学園中学校	2 城北埼玉中学校	1 光塩女子学院中等科
かえつ有明中学校	3 成城中学校	1 淑徳与野中学校
國學院大學久我山中学高等学校	1 高輪中学校	1 田園調布学園中等部
駒込中学校	8 北嶺中学校	1 東京家政学院
埼玉栄中学校	1 本郷中学校	2 桐朋女子中学校
栄東中学校	2 武蔵中学校	1 豊島岡女子学園中学校
芝浦工業大学附属学高等学校	1 早稲田中学校	1 中村中学校
渋谷教育学園渋谷中学校	1	三輪田学園中学校
昭和学院秀英中学校	1	目白研心中学校
成城学園中学校	1	盛岡白百合学園中学校
成立学園中学高等学校	2	
青稜中学校	1	
専修大学松戸中学校	1	
多摩大学目黒中学校	1	
千葉日本大学第一中学校	1	
千葉明德中学校	1	
東京農業大学第一高等学校中等部	1	
東邦大学付属東邦中学校	3	
東洋大学京北中学校	2	
広尾学園中学校	2	
広尾学園小石川中学校	1	
武南中学校	1	
宝仙学園中学校	2	
三田国際学園中学校	2	
武蔵野大学中学校	1	
明治大学付属中野中学校	1	
宝仙学園中学校	2	
安田学園中学校	7	
立正大学附属立正中学校	1	

令和3年度入学 18回生
保護者の皆様からのメッセージ
新入生からのアンケート

保護者の皆様からのメッセージ

区分A

中学生になると、学びの場が変わるので、入学しても親子共、緊張する日々が続きますが、先生方の対応が丁寧です。それだけに、保護者としては安心します。我が家では塾に通ってません。過去問を解いていると、テスト勉強というだけでなく、身につけるべき学びに繋がりました。

本人が、ここに行きたいという強い気持ちを持つ事がなにより大事だと思います。体調に気を付けて頑張ってください。

学ぶ楽しさを感じながら勉強してほしい。

幅広く好奇心を持って、普段の学習を大切にすることが一番の受検準備になると思います。

学習塾の先生からは、新聞のコラムを书写することや、桁数の多い数字同士の掛け算や割り算の練習を何度もするよう、言われました。

闇雲にただ勉強するのではなく、物事の本質を考える事を大事に勉強をしてきた事が良かったのかと思います。

受けるどの学校に行くことになっても大丈夫とした上で、頑張るほど選択肢が増えるよと励ましたことでプレッシャーを感じることなく受検を終えることができました。私立第一志望で私立用の塾でしたが、苦手教科が国語だったこともあり6年から作文クラスを単科で取りました。国語の記述も解答欄を埋めれるようにはなったし、九段対策にもなったと思います。

授業は分かりやすいし教育熱心で面白くとてもいい学校です。

日々の小学校での勉強をしっかりやることがとても大切です！

夏休みの夏期講習、平日のチューターによる指導、塾に通わなくても対応できる課題を沢山やりました。

子供が自ら勉強するようになりました。課題は多いですが、中学生になって自ら計画的に学習できるようになったのは、先生方の指導のおかげだと思っています。本人の意思が大事だと思いました。

とにかく検査に慣れることだと思います。過去問はとても大切ですし、グラフの読み取り、また自分の考えを簡潔な文章にする習慣をつけられたら良いかと思っています。

自分を信じておもいっきりやってね。

小学校での学習を基本とした家庭学習をメインとし学習塾ではおさらいを重点的に学習しました。受験勉強だけに偏らず学習できたのが良かったように思います。進学後は6年間通して熱心な先生方と恵まれた学習環境で学習できることに感謝しております。

受験勉強を通じて、自ら考える事の大切さを学ばせる事ができたと思います。大変でしたが、合否に関わらず、貴重な経験となりました。

学生本人の希望を尊重する。

A区分ではありましたが、6年生までは決して成績優秀ではありませんでした。でも、持ち前の友達思いで優しく、何にでも学校行事には積極的に取り組んでいましたので、その辺も評価していただいたのではないかと考えております。合格し、成功体験ができたことは子供にとってとてもありがたいことでした。大学受験は志望通り行くのか心配ですが、この6年間、楽しく有意義にしてもらいたいと考えています。

最後まで諦めなければ願いは叶うと思いました。

合格がゴールではなく、入ってから大変なので、勉強し続ける習慣を身につけておきましょう。

入学後の学習スピードの早さ、応用力を求められるとは聞いていましたが、小学校の通知表、テストなど全て好成绩だった息子もそのスピードには苦勞しているようです。基本だけでなく応用力も、もっと身に付けさせるべきだったと痛感しております。学習塾に行っていない方は応用力の身に付けさせ方を親子で考えた方がいいと思います。

首都圏模試は参考になります。

受検に限らず勉強する目的を本人が持っているということが重要だと考えてます。

子供自身が色々な興味や意欲を持ち、親もそれに応えていた方が良い。

本人が行きたいと思うかどうかが一番大切だと思います。また、小学校の学習をしっかり頑張ることに加えて、文章を正しく読み取り、時間内に答える練習は、過去問を解くなどで対策しておいた方がよいと思います。

適切な教育方法は子供によって違うと思いますが、我が家の場合、勉強は信頼できる学習塾に通っていましたが、口を出さずに塾にお任せして、それ以外のモチベーション維持や健康管理等に気を払いました。

自主的学習が大事です。

苦手科目を克服するためにも、早めに塾や家庭学習で対策することが大切だと感じました。

親子で「中学生」をイメージするところからスタートしました。私立を考えていなかったこともあり、千代田区内3つの中学の説明会や運動会、文化祭を数年かけて見学しました。（結果的に6年生はコロナ禍で学校説明会開催がなかったので、早い時期に説明会や各種行事に参加してよかったです。）九段受検に向けての学習は、他の公立中学進学後も役立つと考え、小学5年から公立中高一貫コースの塾に通学、受検に向けての情報等は塾を参考に準備しました。5年生の夏休みに「至大荘親子臨海」参加し、行事の魅力を感じたことで九段受検のモチベーションが沸いたようです。6年生になる直前3月～5月の3ヶ月間の休校の間は、塾のオンライン授業で何とかペースをつかみました。再開された小学校では、制約が多いなかでも最後の小学校生活を楽しむために、みんなで工夫して行事を行ったり、習い事も続けたりと、受検勉強に偏らない生活を心掛けました。直前期は思うような結果が出ないときなどもあり不安になりますが、気分転換もしつつ乗り切りました。

合格したいという強い意志は必要だと思いますが、たとえ合格してもそれで燃え尽きてしまうこともあるし、不合格だったとしてもその後、発奮してかえってよかったということもあるかと思っています。模試、本番を問わず、それらの結果に一喜一憂すべきではないと自分に言い聞かせています。結局、何がよかったのか、それは本人の問題であり、短時日では分からないことなので。

塾などには行きませんでした。その分、物事に対していろいろな角度から考えること、

そしてそれを言葉や文字に落としこむことを意識していました。親子でたくさんコミュニケーションをとりました。

塾には行かずに両親と学習したことで、子供の強みや考え方の癖などがわかり、また何よりも合格という目標に向けて共に過ごした時間は、濃密で記憶に残るものとなりました。受検をご検討されている方は、保護者様がまず過去問を解いてみることをお勧めいたします。一般的な中学校と比べて登校時間が早いので、遠方から通われる方は気をつけた方が良くかもしれません。

私立向けの準備をしてきましたが、6年生10月からは適性検査の模試や単発の講習会を受講しました。適性検査の形式に慣れておくことは、大切だと感じております。

私立向けの勉強を主にしていましたので、適性検査の対策は過去問を解いたことぐらいですが、埼玉の私立で適性の練習をしたことは良かったと考えてます。

私立受検対策もしていましたが公立中高一貫校対策では作文対策を重点的に行いました。

6年生から塾へ行こうと考えていましたが、自粛期間などで思うようにいかず、続けてきた通信教育と落ち着いた頃から個人指導塾を併用して勉強しました。本人が受検を決めたので、最後は本人なりに頑張っていたと思います。

受検準備としては、小学2年生より私立対策の塾に通いました。沢山の学校を見学した中で、九段の教育方針や充実した教育内容に魅力を感じ、九段も視野に入れ5年生からは公立中等一貫校と私立併願対策の塾に切り替えました。適性検査型の勉強はアプローチが難しいと言われた為、学習内容は殆ど塾にお任せし、親は主に時事問題対策や体調管理のフォローに注力しました。また、過去問は10年分を3巡して、時間配分等を頭に叩き込んでいた様です。本人は低学年の時に学校見学をした後、当てにしていた6年生の時の説明会がなかった為か、少し心配もあった様で、直前に私立校と悩んだ場面もありました。しかし、このコロナ禍で、立地条件の良さは何物にも変え難いとの考えに至り、当日は「絶対に九段に入る」との強い思いで受検に臨みました。

「学ぶ楽しさ」や「学ぶ力」を、日々の課題や小テストなどを通して身につけていくスタイルの学校だと思います。色々な子がいますが、一生懸命に学ぶ姿を茶化す子はいないので、真剣に学習に向き合えるのが良い点だと思います。

区分B

受検勉強を始めたのが6年の9月末という大変遅めのスタートでしたが、何より本人の絶対に受かるぞという強い思いと、過去問を何回も解き直したことが結果につながったと思います。

受検勉強を楽しむことが大切だと思います。

通っていた学習塾の授業とその復習を大事にしました。また、過去問10年分を3回ほど繰り返し取り組みました。取り組む教材を絞って繰り返すことで、ある程度の知識も自信もついたように思います。

算数、理科を早い段階から得意科目にできるといいと思う。理科の実験塾に通ってましたが、それがとても役に立った。

小学校の早い時期に自分で学習する習慣を身につけて、受検のタイミングで、本人の実力にあった学校を選ぶのが、いいかと思います。中学校の学習も、本人の理解度に合っているようで、宿題や課題が多く大変ですが、充実した日々を送れています。

本人が楽しく勉強し、息抜きできる事ができれば、メリハリが付き良いのではないかと思います。

勉強、スポーツ、芸術など、好きになるのが、最も子供が伸びる方法です。無理のない範囲で、楽しくやるのが良いと思います。

まだ小学生、試験当日まで勉強の伸び代はあります。模試の結果などで一喜一憂せず親はこどもを応援してあげてください。

受検勉強として捉えずに日々のニュースや起こっている事や疑問に思った事を自分で調べたりして解決する力をつける事、又、どんなジャンルでも自分が選んで好きな本を沢山読む事は受検勉強に繋がるのだと思いました。又、学校での課外活動や習い事でもお友達と一緒にやる活動の中で得られる事が沢山あるので、小学校高学年でもその時間も大切な時間だと思います。

受検生の皆さん、努力は必ず結果に繋がります！親御さんはお子さんの力を信じ支えてあげてください。応援しています。

受検は私立のような知識詰め込みではなく、人間形成に大変役に立つ勉強だと思います。九段中等教育学校へなぜ行きたいのか？本人とたくさん話すことが大切だと考えていました。

パソコンに慣れておいた方が良いでしょう。

先生方、生徒共にやる気を感じます。真面目なお子さんが多い印象です。また、立地・治安も良いので安心です。

定期的な模試・テスト等で実力値を測りながら対策を行う方がいいと思いました。

今、頑張ったら楽しい中学校生活が待っているから頑張ってください。

月並みですが、受検準備は過去問を繰り返し解くことが重要だと思います。

息子の場合、とくに九段については過去問を少し解いた程度でそれほど綿密に対策してはいなかったようですが、私立難関校独特の記述メインの長文問題を解き慣れていたことが奏功したように思われます。通っていたのは完全に私立向けの塾でしたが、都立中対策の通信講座や小石川中等の過去問などで適性検査型の問題に少なからず触れていたこと、追い込み期にマンツーマンで作文の添削指導を受けたこともポジティブに働いたかもしれません。コロナ禍で学校見学の機会がなく、息子が九段を初訪問したのは願書受け取りの時となりましたが、靖国神社側からのアプローチの雰囲気良さが息子の心に響いたようで、志望意識を高める良い第一印象となったようです。また宇宙好きの息子にとっては、天文台があるということも後押しになりました。報告書の点数はそれほどよくないだろうと見ていたので、親としては不安要素の多い受検でしたが、合格をいただけたことは望外のよろこびであるとともに、よく合格できたものだといまでも不思議に思うところがあります。ご縁ということを感じざるを得ません。

モチベーションをいかに維持するかが重要だと思います。志望校を一旦決めたら、途中で変更せず、最後まであきらめず勉強を続けてください。

近隣から通うお宅と遠方から通うお宅とではいろいろなことが違うと思うが、同様の扱いがされている。その点を理解した上で入学を検討したほうが良いと思う。

小学校の勉強・委員会などの活動を疎かにしない。

過去問を繰り返す解くこと。

受検勉強では九段の過去問を解くのが楽しいと言って自主的に勉強していました。入学後もやはり学校の授業が楽しくやり甲斐を強く感じるようです。

公立と私立を併願できるのかとても不安でしたが、私立の勉強は適性検査の対策にもなりました。

子供を信じて応援してあげてください。

親子で楽しみながら受検準備をしてほしいです。

受検直前に力を入れるよりも日々の積み重ねが大事だと思います。まず、子供に毎日勉強机に向かうという習慣付けが大事だと思います。

大学進学後のその後を考えさせてくれる学校、考える力をつけさせてくれる学校です。単に勉強を詰め込むだけでない、将来を見据えた教育をして下さるという点で九段を選びました。クラスも先生方も明るく、楽しくやっています。自分の道は自分で切り開く、逞しい子になってほしいと期待しています。

九段中学への受検を通して、子どもの学力は最後の最後まで伸びるものだと実感しました。また、本番入試時に、本人が落ち着いて普段通り対処できるかも大切だと感じました。諦めず最後まで頑張ってください。

苦手な作文を対策するために5年生から都立専門の塾に通いました。理数系は私立の勉強が役に立ったと思っております。受検対策は子どもの性質が変わってくると思うので、学習方法の見極めが大切だと思います。コロナ禍での受検準備は心身ともに大変ですが、ご健闘をお祈りしています。

コロナ禍で何かと制限が多い状況かと思いますが、なるべく志望校に足を運んでみるのが良いと思います。学校によって、生徒も先生も校内も雰囲気はすごく違います。

日々の勉強はもちろんですが、模試などを積極的に受けて現状(順位等)を知る事が大事だと思います。また正解できなかった問題は必ず解き直しました。作文が苦手で苦労した息子には、苦手意識をなくす為に「苦手ではないよ！やればできるんだよ。」を何回も言いました。作文で良い結果がでた時はすごく褒めました。そして「家族全員が受検を頑張っている、

一人で頑張っているわけではない、ママもパパも一緒だから安心して！」と伝えました。学校選択は九段祭へ行った時、本人が「ここに行きたい」と自分で決めました。最後は本人の入学したいという強い意志だったと思っています。

基礎勉強が大事と思います。

共学の進学校が志望で地区の公立中に行かないとなると、選択は限られてきます。都立(区立)一貫校のみの受検はリスクが大き過ぎますので、私立に軸足を置いて小3の2月から私立向けの大手塾に通いました。塾の教材で計算とコラム(短い文章)を読むことは、毎朝していました。私立の共学校対策の中で志望した学校が記述問題を多く出すところでしたので、役に立ったと思います。過去問の記述の添削は、塾の先生がしてくださいました。九段対策は直前に過去問に目を通す程度しかできませんでしたし、やる余裕(時間)もありませんでした。見たことのない問題でも何とか粘ってヒントを探し、知っている知識を総動員して解いていく、計算や文章の読解のスピードが上がれば、応用問題へ考える時間をかけられるなど、総合的に力が付いていたのでしょう。九段はキャリア教育、英語教育、行事等、わが家の希望とバランスがとれていると考え、入学を決めました。わが家は上の子に続き2度目の中学受検で慣れているつもりでしたが、不測の事態が起こり大変慌てました。しかし、家族で同じ方向を向いて団結できたことがよかったです。家庭内でのコミュニケーション、家族の意見に耳を傾けることが大切だと感じました。

勉強するにも、志望校を決めるにも、本人の意志と意思が一番大事だと思います。

入学して良かったと感じた事は、思っていた以上に英語教育に力を入れているところです。また、入学して間もない頃から大学入学を見据えた話を本人にしっかりと伝えてくださっていたところが素晴らしいと思いました。中学受検自体、結果はどうあれよい経験になるとは思っていましたが、合格出来た事は確実に次のステップに繋がっています。中間考査の勉強など、自ら考えてやり方や時間を調整しています。親としてもあの大変な受検を乗り越えられたのだからと、声かけも楽です。地元の区立中学に行っていたらこの6年でかなりの差になると感じました。

6年の夏休み前までは以前より通っていた塾に通い、夏休みより公立中高一貫校の対策を行いました。秋からは複数の塾の模試を受け、解き直しも必ず行いました。全国の公立中の問題集を解きました。自分で計画を立てて実行していました。受検勉強だけでなく、学校生活も大切にして友達と楽しく過ごしていました。体力をつけるために毎日ランニングや縄跳びなど運動もしました。気分転換に時間を決めてYouTubeもテレビも観ていました。自分の進路なので両親は口は出さずサポートに徹しました。

九段自立プランは、将来設計にフォーカスした素晴らしいプログラムだと思います！

今年はコロナで、とにかく健康管理には気を使い、無事に受検出来たことだけで嬉しかったくらいです。勉強面では、5年生の10月から塾に通い始めました。塾で出された課題や、勉強の仕方など言われたことは確実にこなすようにしました。文系では、作文が苦手は何度書き直しても戻ってくるほどではありましたが、文字数は必ず埋められるまでにはなりました。理系では、算数の計算スピードと精度を上げたことで、文系の分のフォローが出来たようです。あとは、本番の試験問題との相性が良かったことがあげられます。とにかく諦めないで受検してみて本当に良かったと思います。

まずは、小学校の授業はきちんとしっかり受けていくこと。分からないがないようにしていくこと。親ができるのは、美味しいご飯を作り、気分転換をうまくさせてあげること。応援は心でしてました。我が子は、小学校の先生も友だちも塾の先生も塾の友だちも応援してくれていたの、これ以上プレッシャーにならないようにと思っていました。また、塾の先生を信じ、お任せしました。

4年時に文化祭に伺い、生徒さんたちの自主性と協調性、笑顔に憧れを抱いたようです。天体観望会にも参加し、そこで先輩方とお話してきたことも大きかったと思います。生き生きと、そして優しく接してくださる姿を拝見し、同じように育ってもらえたら・・・と感じたのを覚えております。ただ倍率を考え私立も併願しておりましたので、5年生から私立向けの塾に入りました。6年生から塾内の学校別コース(休日)のみ都立一貫校対策の授業を受け、記述対策はそれで十分だったように思います。「中高一貫を知る会」に参加した際にいただいたアドバイス「成績表を良い状態でキープする」「適性Iでしっかり点を取る」という事を本人と共有しました。学校での活動(委員会、吹奏楽部、プログラミング大会など)も制限せず、本人はラストスパート以外「頑張った」感覚がありません。楽しく小学校生活を送れたおかげで、志願書に書く内容に困りませんでしたし、放課後スムーズに勉強モードに切り替える事が可能だったと思います。塾には夕飯としてスープジャーのお弁当を持たせ、帰宅後はすぐ入浴。睡眠はなるべく8時間以上取るようにしました。親は体調や栄養管理と言われ、心配事もたくさんあると思います。でも子供同様頑張りすぎず、ちょっとした事は笑い飛ばしていただきたいです。家庭を明るい雰囲気にすることが一番大変だったかもしれません・・・親子で「やって良かった」と思える時間になりますことを、心から願っております。

都立の一貫校も、現実的に通学可能な範囲は全て検討しましたが、九段の面倒見の良さは別格と判断しました。実際に入学から2ヶ月程の間に、その判断が正しかったという思いを強くしています。受検は大変ですが、苦労してでも目指すに値する学校です。是非がんば

ってください。

私立を含め何校か見学致しましたが、4年の九段祭を見て、娘が「行きたい！」と強く志望したのが九段でした。5年の秋から適性検査対策の塾に通いましたが、スイッチが入ったのは6年の夏の志望校別の講習だったように思います。秋以降は志望校対策ゼミや、過去問対策など、より実践的な勉強をしました。私立向け含め、模試はたくさん受けました。九段の問題は特殊なので、特に学校別のものを受けて慣れることはおすすめします。2/3の本番前に私立校を受けたことも、良い勢いになったと思います。

基本的な知識を身につけること。

こちらの学校を希望するにあたり..とは少しずれてしまっていますが、お子様の進路を考えるにあたり……。昨年、学校見学や文化祭もない中、志望校を決めるにあたって候補の学校のパンフレットを頂きにいきがてら8月の炎天下、敷地の周りを、本人と一周しました。生徒さんが顔を見てしっかりと挨拶して下さったのはこちらの学校のみでした。しかし挨拶についての教育はどこも学校もしっかりされていることでしょうか。単にこれはタイミングだと思っています。しかし、元気に顔をみて挨拶して下さる生徒さんに会えて、ここで学びたいと強く思いました。

コロナ禍いろいろなことが制約され涙をのんできています。しかしそのような中でも子供たちの周りにはたくさんのチャンスとタイミングがあるのだと、そしてそのほんの少しのタイミングがこどもの計り知れない力につながることもあるのだと今回学びました。制約ももう少しかもしれない。しかし制約の中でもどうぞお子さんとできる範囲で動いてたくさんのことに出会い、感じ、共に考える一年にしてください。

親子ともども大変だと思いますが、一度志望校を決めたら途中で変更せず、最後まであきらめず継続することが大事だと思います。

コツコツと、学ぶと言う姿勢自体も学べます。

九段中の過去問だけではなく他の学校の、過去問(理系など)も解いた方がいいと思います。理系の配点が高いので私は理系を特に頑張りました。また、ノートなどに自分が間違えそうなポイント、受検時の心構えを書いて当日持っていくといいと思います。受検の日には早寝早起きをして時間に余裕をもって会場に行くといいですよ!!!!

新聞を読んだり、NHK ニュースや教養番組を一緒に見るなどしました。

あまりにも多くの情報が溢れており、志望校を絞っても迷いが生じる事もあると思いますが、しっかり本人と志望した動機について確認できていれば初心に戻ることができます。受検勉強で力を入れたことは、考えの幅を広げるためにニュース等をみながら、様々な角度からの意見を話し合ったりしました。

親子とも九段での色々な行事に魅力を感じ、受検を決めました。習い事の曜日の関係で、5年生では私立向けの塾に行きましたが、計算力や知識などは受検に役立ったようです。6年生では、色々な公立中高一貫校の過去問を解きましたが、解きっ放しにしないことが大切だと思います。最後まで力は伸びるので、子供を信じて頑張ってください。

新入生からのメッセージ

本校を受検するために勉強した内容や方法について、新入生が「これをやっていたよかった！」と思ったものを紹介してくれました。

三角形の面積などの基礎的なところからやり方を復習したこと。

過去問を解く。

入試で、いつどのような問題が出ても、柔軟に対応できるようにしておくことです。例えば、令和3年度入学生決定時の入試では、適性検査1で例年2段落構成で作文を書くところ、3段落で書くという指示がありました。実際に、僕の友人も、2段落で書いて大きく失点し、不合格になった友人がいました。また、適性検査2では、例年、大問1は理系分野からの出題のところ、珍しく、社会分野からの出題でした。このように、いつ傾向が覆されるかはわかりません。このことに柔軟に対応できるのは、受検では強いと思います。

九段中の問題集を買って「こういう問題が出るんだ」と理解して、あとはその問題をひたすら解く。

勉強したことを復習したこと。

作文問題が苦手だったので、作文以外の所を伸ばすようにした。苦手な所はそのままにして、得意を伸ばした。

入試問題のテキストのやり直し、過去問題集を解くこと、作文の練習。

朝日小学生新聞を読んでいた。

頭を柔らかくする問題を解いたこと。

10年間分の過去問をやったこと。

過去問をひたすら解いてどんな問題が出るのかを考えていたのがよかったと思いました。

SDGs、2進法、点字の問題をやっておいてよかった。

なにか気になるものを見つけた時にはすぐに調べる事。疑問をそのままにしない。夜更かしをしすぎない。

新聞をまとめ、親にプレゼンテーションをする。

毎日必ず一問は過去問を解いていた。

僕は過去問を土日などに本番と同じようにときました。解いたことのある問題でも何度もやり直して理解を深めました。

過去問を解いてどのような問題が出やすいか分析して出やすい問題をたくさん解いた。

九段の過去問や過去問に似ているような問題をたくさん解いた。

塾の模擬試験の問題を複数回やる。

作文の対策。

過去問を解いた後、塾の先生に提出して採点してもらい、アドバイスをもらっていたこと。

国語の作文を書くとき、文の要旨を書きだしてから書く練習。

塾と同じように時間を区切ることと、遊び道具を別の部屋に移動させてやったこと、休憩するのではなく別の教科の勉強をすること。

過去問をくりかえすこと。

過去問を解いた。知り合いの先輩に、勉強の方法などを聞いた。

過去問を繰り返し解くこと。

早めに過去問を進めて、何周もする。

様々な本を読むこと。

過去問を解く・「公立中高一貫校適性検査対策問題集」という、中高一貫校向けの問題集

を解く・わからないことは、わかるまで調べる、人に聞くなどが大事です。

過去問をたくさんやったこと。

基礎をしっかりと身につけてから過去問を解く。

両親と一緒に過去問を解き、間違えたところを復習した。

過去問や塾の模試、問題集などを何度も繰り返し解きなおすのが一番よいと思います。あとは、自己採点をして新しく学んだことや発見したことを解答の空欄箇所に書き込んだり、自分が間違えたりわからなかったりした問題だけを写したノートを作って「オリジナル問題集」として使ったりしていました。

中高一貫校の過去問を解くこと、作文の練習、中高一貫校専用の問題集などを行ったこと。九段の過去問を解いたり、他の中高一貫校の過去問を解いたこと。あと、適性検査の慣れと、よくでる問題などを整理してみた。

通っていた塾では、ノートは最低限の事だけを書いて、先生の解説を集中して聞くようにしていました。また、本をたくさん読んでいました。

過去問を夏休みくらいの早い時期から解き始める。

毎日、私が苦手だった適3の様々な学校の過去問を解いた。そうすることで、適3に必要な力や時間配分を身につけられた。結果、本番は適3が最も良い点数がとれたと思う。

理解するまで考える。

首都圏模試を受けた。

塾に通っていたため、指導された通りの勉強をしていましたが、200字の作文の練習に早くから取り組めたことがよかったと思います。また、九段中の過去問題をしっかり理解できたことも、合格に大きく繋がったと思います。

適性検査の、模試を受けて良かった。

過去問を解き、作文の練習をたくさんした。過去問をたくさん解いていて、問題の傾向を知れたので良かった。

都立中高一貫校の過去問をたくさん解いたこと。

過去問の解答用紙を何枚かコピーしておいたこと→何回も解くことができるようになる
為。YouTube を見るのをやめる。毎日自習に行く。

過去問を 10 年分 3 度以上解いた。

普段から自分の身近にある不思議なことや疑問に感じるものを深く考えてみたりしまし
た。こうすることで、自分の考えをしっかりとまとめられるようになりました。また、本な
どを読み、様々な言葉と出会うことで、作文は確実に書けるようになると思います。

出来なかった問題をできるようにするまで練習した。

過去問を何度も解く。

塾に通い指導をしてもらいました。そして自分なりにたくさんの工夫をしました。

九段中等の過去問を何回も解くこと。

苦手な作文をたくさん練習した。

復習ノートをより丁寧を作り、以前、解けなかった問題に何度も挑戦することです。

九段の過去問を 3, 4 周したことと塾の九段特別コースで勉強したこと。

計算問題をたくさん解いた。過去問を全問正解するまで解いた。作文を先生に添削しても
らうこと。

作文を何パターンも考えて、本番に備える。

発展した内容ばかりをするのではなく、単純な問題を何回も繰り返し行いそれを復習す
ること。

過去問を繰り返し解き、毎回復習ノートをつくる。

入試本番の2週間前から学校を休み今まで勉強してきたことを復習すること。

過去問を解くことと、朝日小学生新聞を読んだこと、天声人語の要約の練習。
過去問題などを何回もやり、ほかの都立中高一貫教育校の問題にもふれてみたことです。

塾で長文専門の無料の特別授業を受けていたこと。

塾の長文問題専門の先生に、過去問の長文問題の解き方を教えてもらったこと。

九段の過去問だけでなく、ほかの都立中の過去問も解いたこと。

漢字、文法、作文、資料の読み取り。

新しく何かを覚えたら親とそれに関する雑談などをする。

日々の学習(毎日の計算)、過去問、いろいろな学校の過去問を実際にやってみること。

塾の課題だけではなく、自習でほかの問題集を進めた。(だがこれは塾が優先、そして塾よりも学校が優先)あと、問題集を繰り返しやること、答えを暗記するくらい繰り返しやって、力を付けました。そしてやはり、一番重要なのは過去問です。過去問を繰り返かえし、しっかり行ったものが、受検を制します。

過去問、東京学参の問題集、作文の練習。

模試の解答などで、自分の欠点を分析し、そこをひたすら解くことを繰り返す。

塾で課された宿題の他、ストレスがたまらない程度の自習をやる。

「そっくり模試」。

無理をせずに努力する。身の周りの誘惑を断つこと。

よく休憩をとること、モチベーションを維持すること。【たまにはあまり勉強しない日をつくるなど】

毎朝、新聞の記事に対する自分の感想や実体験を踏まえて書くということを小5からや

っていたこと。

授業が終わったあとも家で復習し、数日後にまた復習する。

中高一貫校向けの勉強だけでなく私立型の勉強もちゃんとやっておく。九段の入試問題は少し私立型に似ているから。

過去問を解いて作文や記述は先生に確認してもらい、ダメだった点を先生から直接聞くこと。

志望校の過去問をコンビニで原寸大にコピーしてカフェなど落ち着いた環境で解くこと。

過去問を何回も解いたり、塾の対策問題をたくさんした。

色々な種類の問題を解く。

過去問を2周以上解く。近3年間は3周解く。また、受検までの最後の2週間は新しい問題を解こうとしないで、復習や過去問の解き直しをする。

九段の過去問(何度も繰り返し)、色々な中学の適性検査型入試過去問、試験会場の雰囲気になれるための他校の受検。

私は5年の秋から塾に通い始めました。特に効果があったと思うことは、過去問を何度も繰り返し解いたことです。九段の問題は他の学校と問題の傾向が違うので、10年間の過去問を各2～3回解き、間違えたところは分かるまで解き直しをし、作文は塾の先生に採点してもらって何回も書き直しました。本番前は、時々音楽を聴くなど息抜きをしながら勉強していました。試験本番は、自分に自信を持って臨むことが大切だと思います。

ある問題に対して一つの方向から出見るのではなく、色々な角度から問題と向き合っていくとよい。またできなかった問題でも、できないなりに考えて先生などにどんな考え方をしているのかを言葉にして伝える。そして教えてもらったなら再度時間をおいて自分で解いてみる。

塾でやったテストの解き直し。

過去問をやって九段中の問題の特徴をつかんでみること。

過去問を解いて間違えたところをやり直し、間違えなくなるまで繰り返し取り組む。作文を書いては先生に提出し、添削してもらい、また直すことを繰り返すこと。

私立の勉強をしていて計算が速くできた。

私は、私立向けの塾に通っていました。都立向けの勉強は直前に過去問に目を通しました。私立向けの勉強でも記述が多い学校の対策をしていたことが役に立ったと思います。

塾の九段特別コースに通っていたこと。過去問を解いたこと。

通信教育、点字の勉強(学校でやったこと)が役立ちました。

塾の公立専門グループの九段講座に出た。実際、受検してみたら、過去問とほとんど同じ問題が出てきたので、しっかり教えてもらえる塾に行ってもよかったと思った。また、新聞やニュースをよく見て、学校の成績も上位を必ず取るようにした。あと、忘れ物もしないようにした。

私立対策の勉強をしていたことと、過去問を少し前の分も解いたこと。

まずは、基礎を固める(4、5年生)そして次に公立校用のドリルを基礎が固まった上で解いてみる。そうすると自分の足りないところが明確に分かるからその足りない所を自分だけの力だけでなく、親を(私は塾の先生に)頼って足りないところを埋める。それである程度、問題に触れて出来るようになったら模試を受けてみる。それでここでは、周りとの差を実感出来るのでこのような順番で受検勉強を進めていくのが私の性格上良かったと思います。また、九段の問題は、変わった(いい意味で)問題が多いので、どんな問題が出てきてもビビらない心を作っておくことが重要だと思います。私はそのために、色々な種類の問題に触れてました。

九段も他の私立の過去問も7年間分の答えと解き方を覚えるくらいたくさん解いていました。

国語の作文や、理系教科の作文のトレーニング。過去問・時間配分の練習など。

過去問を沢山解くことだと思います。他の都立中とも似た問題が出たりする事もあるので、九段以外の学校の過去問も解くことをオススメします。

自分の意見を端的にまとめること。

体調管理と模試の解き直し。

基本的な知識を身に着ける事や応用的な問題の解き方をマスターしておくこと。

受検本番の一、二か月前くらいから九段の過去問を解いて、塾の先生にできなかった問題や解けなかった問題を解説してもらっていた。

200字程度の作文の勉強。過去問をたくさん解くこと。

九段は問題の形式が多様なため、九段の過去問だけでなく南多摩や三鷹など、他校の過去問もやっておいたことです。

息抜きとして習い事を続けたことです。そのおかげで部活があってもテスト勉強が苦にならないです。

問題集を解いて間違えた問題はもう一度解くことを繰り返しました。夏過ぎに都立一貫校の5年分を全て2回ずつほど解きました。色々な系統の問題があるのでとても役立ったと思います。作文は自分で書いて回答を見ながら自分のものを採点したりもしました。

九段は適性検査なので正しい知識というよりはそれを応用したものを問われる方が多かったと思います。なので一つ一つの理由を知っておくことが大事だと思います。

私は私立の中学校を目指す塾に行っていたので、そこでの授業や考え方、知識をしっかりと確認をしていたこと

私は、6年生の秋頃(10月くらい)から塾でやらない九段中の過去問を解いていました。そして、1月頃には塾でやらない他の公立中高一貫校の過去問を解きました。私は、ケアレスミスが多かったのでこのように、何度も過去問を解くことよりも多くの過去問に触れ、復習することを優先していました。そうすることで、問題に慣れていくことができたので、やっていたよかったです。

受検直前などは九段や他の都立中高一貫校で出る問題を解いて、大体の解き方を覚えていました。解き方のレパートリーを増やすとどんな問題でも答えを導く枠組みが作りやすくなるのでお勧めです。過去問を沢山解いておいて良かった。